

帰国・外国人児童のための JSL 語彙教育に関する実践的研究  
— “つながる学習” を可能とする共生型小学校国語教育のためのアプリケーション教材開発 —

田中祐輔（青山学院大学 文学部日本文学科 准教授）

### 1. JSL 児童向け小学校国語教科書データベースの構築とアプリケーション開発

2018 年度助成研究では、小学校第一学年から第四学年までの国語教科書語彙シラバスデータベースと、Web プラットホーム『COSMOS』の構築が実現した。これらの教育現場における試用、および、JSL 児童のご家族や教育従事者へのヒアリング結果に基づき、頂戴した第13回継続助成（アドバンスステージ）研究の機会においては、1）第五学年・第六学年の国語教科書掲載語彙の調査とデータベースの作成、2）前掲『COSMOS』への小学校全学年国語教科書データベース掲載と実践現場における活用、3）小学校全学年国語教科書データベースに基づく JSL 児童語彙学習アプリケーション開発の3点を研究課題に据え、継続研究に取り組ませていただいた。

### 2. 研究内容・方法と成果

具体的には、第一段階として、延べ228,366語の第五学年・第六学年の小学校国語検定教科書語彙のデータ化とアノテーション（学年、出現ページ、単元名、作品のタイトル、原作者、本文中の表記、原型、ルビ、意味、出現箇所、品詞に関する情報を付与）、分析、考察が完了した。第一学年から第四学年までのものと併せると計503,907語に及ぶ。第二段階では、2018年度助成で構築された Web プラットホーム『COSMOS』にアドバンスステージで完成した全学年データベースを掲載し国内外の教育機関や語学検定試験実施団体、教科書開発出版社にデータを提供し実践現場での活用を推進した。提供回数は2,327件に上り、研究期間中に発生した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響によるオンライン利用需要急増も受け、Web サイト『COSMOS』の利用は世界33カ国・地域にまで広がった。また、得られた知見は、『計量国語学』（計量国語学会）への論文掲載、筑波大学日本語・日本事情遠隔教育拠点や子どもの日本語教育研究会、日本語教育史研究会での口頭発表・招待発表・ワークショップなどを通して公表された。外部評価としては、本研究の活動に対し、特定非営利活動法人キッズデザイン協議会が主催する『第14回キッズデザイン賞』においてキッズデザイン協議会会長賞を受けた。研究成果の社会還元、データベースなどの普及促進のために解説動画配信や解説書の配布、データベース冊子版の提供なども行なった。第三段階では、データベースの分析によって得られた基本語彙を JSL 児童が練習し習得することのできるアプリケーション教材を開発し、教育現場での試用調査と公開準備を行なった。

グローバル化の進展に伴い、我が国の在留外国人数は288万人を超え、外国人児童は多様化し、日本語指導が必要な日本国籍児童も10年間で倍以上に増えている。我が国で学ぶ児童が等しく学習機会を得るためには、帰国児童・外国人児童への日本語支援拡充が不可欠であり、本アドバンスステージ研究では、2018年度助成で得られた教師・研究者向けの教育資源を、さらに強化・展開することで、帰国児童・外国人児童の学びの実践的なサポートにまで発展させることができた。

### 3. 今後の課題と展望

今後の課題も残されている。まず、2019年の研究報告会で審査委員の先生方よりご指摘いただいた改訂された国語教科書（令和2年度版）のデータ化と、それに基づく経年変化の分析が、今後の JSL 児童教育研究に極めて重要であると考えられる。さらには、国語教育の新たな視座として国際的視野に立った考察と実践、加えて、社会との関わりの中で言葉の世界を捉えた分析もなされなければならない。つまり、JSL 児童への日本語支援拡充に資する国語教科書の研究は、対象教科書を更新するのみでなく、通時的視点や国際的視点、社会的視点に視野を広げながら詳察を続け、帰国・外国人児童の国語教科書を用いた学習環境整備に取り組んでゆく必要があるといえるのである。

今後も、この度与えていただいた研究の機会と得られた知見を大切にさせていただき、日本語を母語とする児童もそうでない児童も、等しく我が国での国語科教育を享受し、豊かな学びを実現するための児童教育実践に関する研究に取り組んでゆきたいと考える。